

ソーラーシェアリングで地域と農業を再生しよう

千葉県
匝瑳市

市民エネルギーちば

と農業生
産法人生

Three·Little·Birds

「一人ひとりの小さな力をつなぎ合わせ、自然エネルギーの活用で地球温暖化を防ぎ、脱原発社会をつくりたい。そして農業を再生して地域社会を守りたい」——そんな思いで「ソーラーシェアリング」を実践し、地域農業を守るうと奮闘しているケループが千葉県匝瑳(そくさ)市飯塚(ますか)地区にいます。太陽光発電事業を行う同社「市民



市民エネルギーちばのみなさん。パネルの増設工事中の若いスタッフと一緒に。

売電収入で若い農家育て耕作放棄地の生産を維持

収益を地域還元する」とが大切

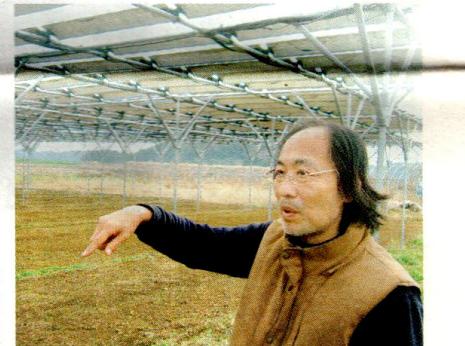
えに、水はけが悪く、今は広大な耕作放棄地が広がり、近年ますます深刻化してしまった。「農家も高齢化につづり、このままだと地域全体が衰退してしまう。なんとかしたい、そう思っていつたときに、農業と自然エネルギーを両立できるソーラーシェアリングといふ方法があることを知ったんです」と言うのは、「市民エネルギーちば」

の代表社員、東(ひがし)光弘さんです。

「市民エネルギーちば」は、地権者である農家からの農地を賃貸借して、農地の上に太陽光発電を設置・施工・維持管理し、下の農地の耕作は、昨年2月に発足した農業生産法人「Three · Little Birds」に依頼。設置費用は、「市民エネルギーちば」が市民出資を募ったり、自然エネルギー

エネルギーちば」と、ソーラーパネルの下の農地の耕作を請け負う農業生産法人「Three · Little · Birds」の皆さんです。

ただらかに傾斜する丘陵に、広大な畑が広がる匝瑳市飯塚地区開拓地区にあります。太陽光発電事業を行なう同社「市民



パネルを設置した畠で説明する東光弘さん。畠は小麦畠を耕作する椿さん(中央)と寺本さんは農民連会員



東さんは言います。

耕作受託料が若い農家の収入に

「Three · Little · Birds」には新規就農者や有機農業に取り組む農業後継者など30代の青年農家3人のほか、地域の耕作委託料となる。

「Three · Little · Birds」は組みになっています。ベラン米農家の椿茂雄さんは、寺本幸一さんが参 加し、機械を貸したり、農作業を教えたりして協力しています。

連会員で、20年にわたる大豆畠トラストの大豆生産者であり、開畠の農地を守ろうと、この地で大豆、小麦、大麦などを栽培したり、そういう社会全体のために大切なことが大切だと思っているのです」と、

人が金もつかずするんじゃないなくて、地域の若い農家を応援したり、地域環境や地域環境の保全に役立った社会全体のために大切なことが大切だと思えるのも難しい。このソーラーシェアリングの仕組みで農地を荒らさずにすむのは、本当に助かります。ぜひ若い人を応援していきたい」と寺本さんは、「若い農家が無農業や有機農業など新しい農業にもチャレンジできています。若い農業者を育てる上でも大きな力になっているのです」と、話してくれました。

寺本さんは千葉県農民